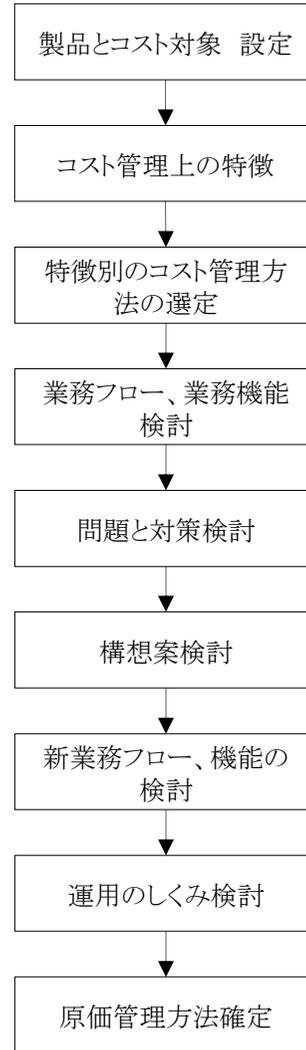


原価管理に関わる組織では、開発時の原価目標を実現するために、①原価を決めている部門（たとえば設計・生産技術・購買）と②日々の生産に伴って原価を発生させている部門（購買、生産等）があります。さらに②の結果をもとに、①に反映して、ミナムコストを追求するためのしくみを企画・運営させる原価管理部門③があります。原価管理では、それぞれの部門が、原価を共通指標として連携して活動することが重要です。

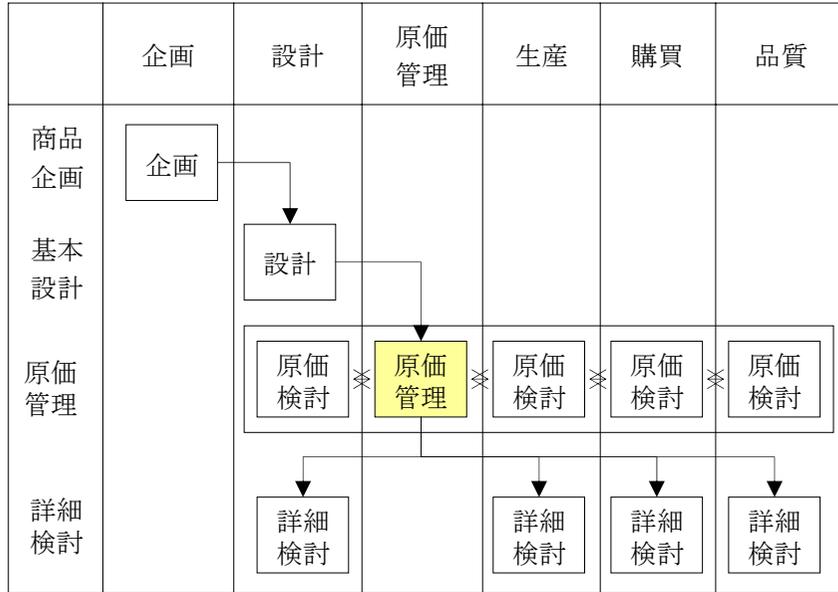
①はコストを開発する組織ともいえます。これらは、お互いに連携してミナムコストを実現しなければなりません。企業の組織は機能別になっており、各部門毎の目標によって行動します。その結果個別最適なコスト追求になってしまい、必ずしも最適な行動を取ってはいません。そのために組織連携でミナムコストを追求させるのが原価管理部門の役割です。原価管理部門は組織の誰よりも声高にコスト低減のためのリーダーシップを発揮するように行動すべきです。②は生産実績情報つまり、生産に費やされた部品や生産時間を集計して掛かった原価として計算し、そのムダコストを顕在化し、最小に持つていく行動をしていくべきです。自分たちで出来るものと設計等のコスト開発部隊にフィードバックするものを明確化して対応します。

これらの業務連携、コスト集計、可視化を実現するシステムとして原価管理システムを定義して開発すべきです。この原価管理の精度は、マスター情報の精度、例えば標準時間の定期的な見直しと、実績時間の把握の精度に左右されます。このことを認識したしくみの向上と体制の整備が重要です。

展開ステップ



原価管理のしくみ例（製品開発時）



標準原価算出方法（製品生産時）

